

石版画「官幣中社札幌神社境内之春光」(栗田鉄馬)



第1回フォトコンテスト入賞作品
「表参道桜並木」小野寺勇人

特集

文武両道の鍋島侍 佐賀城本丸歴史館学芸員 藤井祐介氏

開墾の始めは豚と一つ鍋 依田勉三 合田一道氏



北海道神宮例祭

「神輿渡御・連合山車巡行・奉納行事・露店出店」中止のお知らせ

謹啓 陽春の候 愈々御清栄の御事とお慶び申し上げます。
平素より北海道神宮御事につきまして、ご理解とご協力を賜り篤く御礼申し上げます。

扱、既に報道等によりご承知の事とは存じますが、新型コロナウイルスによる感染が深刻化しており、感染症の拡大防止に万全を期す為、各種対応が行われております。

北海道神宮といたしましては、この非常事態が一日も早く終息に向かうことを祈りつつ、出来る限り実施する方向で調整してまいりましたが、未だ先の見えない現状に鑑み、誠に恐縮ながら本年の北海道神宮例祭における神輿渡御・連合山車巡行・奉納行事・露店出店を中止とさせて頂きたく存じます。皆様方には大変ご迷惑をお掛け致しますが、諸事情お酌み取り戴きますよう、お願い申し上げます。

尚、宵宮祭・例祭・後日祭につきましては責任役員・総代・正副講長参列のもと、祭典を斎行致しますのでご理解の程お願い申し上げます。

謹白

| | |
|--------------|-------------|
| 北海道神宮 | 宮 司 吉田 源彦 |
| 北海道神宮敬神講社 | 講 長 中川 昭一 |
| 年番第八豊平祭典区 | 代表委員長 松野 哲也 |
| 山車年番第六西創成祭典区 | 代表委員長 松野 哲也 |

新型コロナウイルスの影響について

北海道神宮では、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、三月～六月の期間、次のような対策を行っております。
ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆祭典について

・中止

- 「吟詠誕生祭・一日参り」
- 「敬神婦人会誕生祭」「むすび会誕生祭」
- 「第三十七回入学祭」
- 「一日講社誕生祭」(頓宮)
- ・参列なしでの斎行
 - 「月首祭」「旬祭」「月次祭」
 - 「興風会献詠祭」
 - 「昭和祭」

◆施設の閉鎖について

「手水舎」

◆活動の一時休止について

- 「養心館」(少年剣道)
- 「ボーイスカウト」「ガールスカウト」

◆閉門時間の変更について

午後五時↓午後四時(六月末迄)

また、例年六月三十日に斎行致しております、「夏越の大祓」につきましては、現在のところ、例年通り皆様から人形ひとがたをお預かりし、当日の式は職員のみで斎行させて頂き、予定となっております。茅の輪につきましても、例年通り六月三十日より神門前に設置致しますので、ご参拝の際にお潜りいただける予定です。ただし、状況により変更となる場合もございます。何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

北海道神宮では、三月十五日(日)の月次祭にあわせ、新型コロナウイルス流行鎮静祈願祭を斎行しました。また、月首祭・旬祭・月次祭をはじめ、毎朝の日供奉仕の際にも祝詞を奏上しております。新型コロナウイルスの流行が収まり、一日も早く平穏な日々が戻りますよう、職員一同衷心よりお祈り申し上げます。



手水舎



神職のみで行う祭典

鍋島直正による

蝦夷地探検の特命

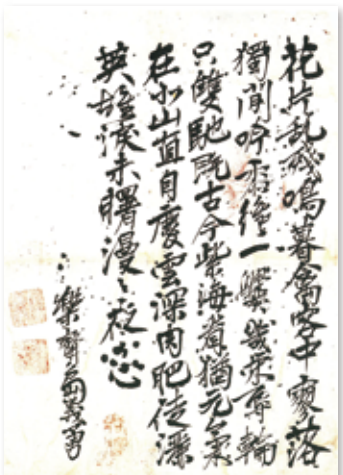
島団右衛門義勇は、文政五（一八二二）年九月十二日、佐賀藩士島市郎右衛門有師の長男として佐賀城下に生まれた。二十三歳で弘道館を卒業し家督を継ぐと、二十六歳で十代藩主鍋島直正の外小姓を務めること



島義勇

自信を覗かせていた。ロシアに対する重要防衛拠点としての札幌は、山・海・大河に囲まれた天然の要害であった。そこへの本府建設と北海道開拓は、島が考える新政府の最重要課題であった。その切迫感に、参議で従兄弟の副島種臣に対して「鉄道敷設よりも北海道開拓のほうが喫緊の課題であり、その予算の半分でも開拓に回すべし」と訴えるほどであった。

ところが、本府建設に着手したその矢先、島に東京召還の命令が下る。同三年三月二十五日に東京へ到着すると、そのまま階級上の大学少監に転任してしまった。札幌を離れるにあたり島が詠んだと思われる漢詩には、「客中寥落独り聞吟す」と「肉肥徒に瀧る英雄の涙」といった二節がみられる。《力や思いは漲っているのに全うできない》という無念さが詠み込まれたのであった。わずか四か月余り、志半ばで東京に召還されてしまったが、



島が札幌を離れる際に詠んだ漢詩（佐賀県立博物館蔵）

その後も島が描いた都市計画に基づき札幌は形づくられていった。

「佐賀の乱」での

非業の死と名誉回復

突如の転任後、島は明治天皇の侍従や秋田県権令を歴任。そして明治七（八七四）年を迎えるのである。いわゆる「佐賀の乱」が勃発した。当初は三条実美から「佐賀鎮撫」を依頼されて帰郷したが、最終的には郷土防衛のためとして江藤新平とともに首領に担がれた。戦端が開かれると島は奔走し、従兄弟であった武雄領主鍋島茂昌に「元帥」就任を依頼したほどであった。しかし実現せず、戦況も悪化する中、鹿児島で捕縛された。そして江藤とともに刑死した。五十三歳であった。

明治二十二（一八八九）年二月、大日本帝国憲法が発布され、それに伴う大赦が行なわれた。島らの「内乱罪」は消滅したのである。島の名誉を取り戻すかのごとく、副島種臣は「忠勇姿を為す」人物であったと改めて称えた。大正五（一九一六）年には従四位が追贈された。名誉回復の間であった。昭和十三（一九三八）年、開道七十周年に際して北海道神宮境内社である「開拓神社」が創建され、北海道開拓に貢献した二十七

た。戊辰戦争では、慶応四（一八六八）年に直正の命により軍艦奉行として兵庫へ行き、新政府の東征海軍参謀補として先鋒隊を編成。横浜に入ると幕府海軍引渡しの交渉に立会い、勝海舟らとも会談した。

「五洲第一の都」をつくる

明治二（一八六九）年五月、新政府による箱館総攻撃が行なわれ、戊辰戦争が終結。「開拓使」が設置されると、七月二十二日、島義勇は開拓判官に就任した。佐賀藩時代における蝦夷地探検の経験による人事と思われる。同月十三日には鍋島直正が初代開拓使長官に就任していた。島は北海道の「本府」を建てることを命じられたのである。

十月二日、島は函館を出発した。陸路を石狩方面へと向かい、十二日には銭函（現・小樽市）に本府建設の仮役所を設置。そして十一月から札幌で本府建設に着手したのであった。島は札幌がいずれ「五洲第一の都」「世界の大都市になると漢詩を詠んだが、同僚の松浦武四郎や東京の参議大久保利通らにも手紙を送り、本府建設への



島義勇銅像（佐賀城公園）

人が祭神として祀られた。島義勇も鍋島直正らとともにその一柱となったのである。

そして平成三十二（二〇二八）年十一月十二日、明治維新一五〇年を記念して佐賀城西御門橋南側（佐賀市内）に島義勇の銅像が建立された。その視線の先には主君鍋島直正の銅像があり、更には遠く北海道を見据えている。



佐賀県立佐賀城本丸歴史館学芸員 藤井祐介

- ◆昭和五十七（一九八二）年福岡市生まれ。
- ◆九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程単位取得退学の後、平成二十四（二〇一二年）四月佐賀県立博物館に着任。
- ◆平成二十七（二〇一五年）四月から現職。専門は日本近世史。

社頭風景

十二月～三月



1



2



3



4



5



6



7



8

- 1 元旦社頭
- 2 元旦社頭
- 3 煤払い(12月26日)
- 4 餅つき(12月27日)
- 5 師走の大祓(12月31日)
- 6 歳旦祭(元旦)
- 7 元始祭(1月3日)
- 8 祈請祭(1月19日)

元旦

北海道には珍しいほどに雪の少ない中、令和二年庚子の正月を迎えました。元旦の天候は予報では芳しくないものでしたが、いざ迎えれば大神たちの御加護によるものか、とても穏やかなものとなりました。社頭はチラチラと降る雪の中、三が日で約六十三万人もの参拝者を迎え、正月らしい活気に充ち溢れ、参拝に来られた方達は感謝と願いを込めて神前に祈りを捧げていました。

午前七時には、新年を寿ぐ歳旦祭を斎行し、難波神楽「四方拝」が奉奏されました。

師走の大祓

十二月三十一日(火)午後三時、神門下の祓所にて師走の大祓を執り行い、当日は約千人ものご参列をいただきました。大祓に続き、本殿にて除夜祭を斎行し、参列者には御守りと撤下品が授与されました。

大祓は知らず知らずのうちに犯してしまった罪や穢れを祓う為に行う神事です。ご希望の方には、その身の罪、穢れを移した紙の人形ひとがたを当神宮へお持ちいただくかお送りいただき、それを神事後、川へと流すことで祓い清めます。北海道神宮では六月三十日と大晦日の年に二回、大祓を斎行しております。どなたでもご参列いただけますので、お誘い合わせの上お参り下さい。

元始祭

元始祭とは年始にあたり、皇位の本と由来を祝し、国家国民の繁栄を天皇陛下御みずからご奉仕される宮中祭祀で、戦前は国の祭日の一つでした。現在でも宮中は勿論、全国の神社でも中祭として斎行されており、北海道神宮においては一月三日(火)午前九時、厳肅に斎行され、祭典の中では難波神楽が奏されました。



1 2 古神札焼納祭(1月14日)

古神札焼納祭

古神札焼納祭は、左義長、どんと焼きとも呼ばれる神事です。北海道神宮では二月十四日(火)北海道神宮境内弓場にて斎行致しました。斎場には皆様が一年のあいだ御守護頂きました御札や御守、神棚や玄関に飾られていた注連縄や門松などの正月飾りが高く積み、お清めの後、御神火をもって焼納されました。当日は多くの参列者が、高らかと上がる炎を見守りつつ感謝の誠を捧げるなか、北海道神宮俊祇講の方々の奉仕のもと無事に終了しました。



4 5 節分祭(2月3日)

節分祭

二月三日(月)午後三時より本殿にて節分祭が斎行され、祭典終了後には、北海道神宮祈請講により新たに奉納された特設舞台にて豆うち神事が行われました。三条神楽の笛と太鼓に合わせ、赤鬼・青鬼が荒々しく練り歩き、それを宮司が「鬼は外」の掛け声で豆をうち追い祓いました。その後、宮司並びに袴姿の年男・年女の方々により舞台から豆うちが行われ、福を願ってくじ付きの紅白餅と福銭が撒かれました。

祈年祭

我が国では古来より、生活の基として稲作が行われてきました。神社の祭祀にも農業にまつわるものが多くあります。その中でも重儀とされる祭祀が「祈年祭」です。ここでいう「年」は「とし」と訓み、稲を意味しています。「年」を祈る、つまり、五穀豊穣を祈るお祭りです。北海道神宮では、二月十七日(月)午前十時に斎行され、神前に海の幸・山の幸を献じ、巫女による神楽「悠久の舞」が奉奏されました。



3 祈年祭(2月17日)

天長祭並びに 天長祭禊第十回新成人寒中禊会

天皇陛下には長くも六十歳の御誕辰を迎えられ、北海道神宮では、二月二十二日(日)午前十時より天長祭を斎行しました。祭典では「浦安の舞」を奉奏し、宮司以下祭員、参列者一同が御即位後初めての天長節を寿ぎました。

その後、正午より例年成人の日に行われていた新成人寒中禊会を、今年初めて天長祭にあわせて行い、激しく雪降る厳しい寒さの中、十三名の新成人が参加して水を被り身を清めました。



6 天長祭(2月23日) 7 天長祭禊第十回新成人寒中禊

心游舎ワークショップ

彬子女王殿下には、子供たちに日本文化の美しさと多様性を伝え、伝統文化に触れる機会を提供したいとの思い召しを以て、日本の文化継承を中心に、精力的に活動の場を広げておられます。



ワークショップ



彬子女王殿下

二月八日(土)彬子女王殿下には北海道神宮を御参拝されました。

翌九日(日)には彬子女王殿下が総裁を務められております一般社団法人心游舎の主宰のもと、佐賀県嬉野の茶氏松尾俊二氏と日本の職人技術を生かした数々のものづくりで知られる丸若裕俊氏を講師に迎え、お茶のワークショップが参集殿にて開催され二十九名の子供達が参加しました。終わりには参加した子供たちが教わったことを活かして淹れたお茶を、彬子女王殿下と吉田宮司にお召し上がりいただきました。

北海道神宮頓宮



1



2

年末・年始(頓宮)

北海道神宮頓宮では、昨年十二月三十一日(火)午後三時より本殿に於いて、約二百名の参列のもと師走の大祓が行われ、終了後、引き続き除夜祭が斎行されました。

元旦(水)午前十時より歳旦祭並びに二日講社誕生祭が、二月十四日(火)午前十時より古神札焼納祭が斎行されました。

二月三日(月)午後五時より節分祭が斎行され、午後五時半より境内にて豆うち行事が行われました。

1 節分祭 2 古神札焼納祭

武雄市児童交流団参拝

二月三日(月)佐賀県武雄市の児童交流団十四名が参拝しました。武雄市では平成五年より紋別郡雄武町との交流派遣事業を行っており、その中で当神宮を毎年ご参拝いただいています。児童交流団の皆様は参拝の後、御祭神の御霊代を札幌までお運びになられた、佐賀出身の開拓判官島義勇の銅像を見学し、佐賀鍋島藩主・初代開拓使長官鍋島直正公と島判官が祀られる開拓神社を参拝しました。



島判官と武雄市児童交流団の皆様

ひな人形展

祈禱者控殿に於いて二月七日(金)より三月十五日(日)までひな人形展を行いました。



山田祐嗣氏所蔵の明治から昭和の雛人形と当別甲斐の会のつるし雛

北海道博物館 北海道神宮展終了

二月八日(土)より四月五日(日)の期間、北海道博物館二階特別展示室において北海道神宮展が開催されました。

この展示会では、北海道神宮所蔵の資料や絵画とともに、北海道博物館に寄託している資料が展示され、札幌神社(現北海道神宮)の成り立ちから、昭和三十九年(一九六

四)の北海道神宮改称を経て、今日までの境内や祭りの移り変わりについて学ぶことのできるものとなりました。また、寄託資料の収集や神輿渡御などの石版画製作に、明治二十三年(一八九〇)から明治三十一年(一八九九)まで宮司を務めた白野夏雲(二八二七一



北海道神宮展チラシ

期間中、新型コロナウイルスの影響で二月二十九日(水)から三月三十一日(火)の間臨時休館となりましたが、三八二六名の方が来場し展示をご覧になりました。

この展示会にあわせ、センチュリーロイヤルホテルにおいては、二月二日(土)から二月二十九日(土)の期間、北海道神宮の絵葉書展が開催され、北海道神宮所蔵の絵葉書や、北海道博物館に展示された資料や原画の写真、パネルが紹介されました。また、北海道博物館の展示会とのコラボとして「宮華ランチ」として特別なメニューが数量限定で提供されました。



1



2



3

1 2 北海道博物館
3 センチュリーロイヤルホテル



合田 一 道

歴史から見えるもの ⑤

開墾の始めは豚と二つ鍋 依田勉三

晩成社を率いて十勝平野の開拓に挑んだ依田勉三の話は、誰もが知っているでしょう。珍しい衰姿の勉三像が帯広市巾島公園に、その隆



依田勉三

盛を見守るかのようになっています。勉三は伊豆国大沢村(静岡県中川村大沢)の豪農の三男に生まれました。ちょうど黒船が浦賀に入港し、故郷に近い下田が開港になるとい歴史の大転換期でした。

青雲の志を抱く勉三は、明治三年(一八七〇)横浜に出て、宣教師のスコットランド人ワッテルの塾に入り、英語を学びます。その後、上京して慶応義塾に学びますが、中退して実家に戻り、兄の佐二平と相談して豆陽中学校を建て、学校経営をします。

その頃、勉三の心をとらえたのが北海道でした。ケプロンの『報文』を読み未開の大地を切り開く夢を抱き、明治十年(一八七七)夏、北海道を訪れ、四カ月かけて主に道東を調べました。

翌年二月、十勝国一万町歩の未開地無償払い下げを受けると、ワッテル塾で知り合った元信州上田藩

の鈴木銃太郎、同塾教師の元尾張藩の渡辺勝と話し合い、晩成社の創設を決めます。そして参加者を募るかたわら、勉三は銃太郎を伴い再び北海道へ赴いたのです。

二人は十勝川を逆上り、十勝国の中央に位置するオベリベリ(現在の帯広)を開墾地に選定します。そして銃太郎が現地に残り、勉三は故郷に戻って渡辺勝と入植メンバーを整えます。

勉三と勝が十三戸、二十四人を二班にわけて引率し、明治十六年(一八八三)五月十日、横浜を出発しますが、その前日、勝は勉三夫妻の媒酌で結婚式を挙げます。妻となる女性は銃太郎の妹カネ。新婦が父の親長とともに十勝に赴くのはこの半年後です。

一行が帯広に着いたのは六月十四日。現地では冬した銃太郎は喜んで迎えました。ここには和人はおらず、アイヌの人たちだけ。でもみんな親切で、一同が用いる仮小屋作りも手伝ってくれます。小屋も事務所に貸してくれました。早速、開墾に取りかかります。

でも三幹部とも志は高いが農業には無知、移住者たちも温暖な伊豆の農業しか体験しておらず、作物は育ちません。そこへバッタの大群が襲い、僅かな稔りを食い荒らします。そのうち雪が降りだしました。

翌年もバッタに襲われ、三年目は長雨が続き、バッタの卵は腐って全滅したものの、農作物の収穫はゼロでした。食べる物も満足にない日々、勝は「おちぶれた極度か豚と二つ鍋」と戯れに詠むと、勉三は「開墾の始めは豚と二つ鍋」と詠み直したという話は有名です。

こうした中で晩成社の人たちは、周辺各地に開墾地を広げていきました。耕作は馬耕にし、プラウ

など最新の農具を用いて、豆類や野菜を育てました。主食となるコメは購入し、エンバク、ジャガイモなど牛馬や豚の飼料も作りました。ビートやリンゴの試作もしました。水田を設けてコメ作りにも挑みました。椎茸栽培もしました。大樹に牛馬牧場を設けて畜産にも力を入れました。豚肉やバター、練乳の販売も始めましたが、十勝は広尾と大津しか集落がなく、売れません。開港場の函館に肉店を設けて販売するなど苦労を重ねたものの、断念しました。

このように多くの事業は成果が上らず、大正五年(一九一六)には解散同様となりました。勉三が亡くなったのは大正十三年(一九二四)。七十三歳でした。しかし晩成社の蒔いた種は後に見事に結実し、農業立国十勝を不動のものにしたのです。



衰をまとった依田勉三像=帯広市

◆プロフィール◆

昭和九年(一九三四)、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。「定山坊行方不明の謎」で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』『人間登場』北の歴史を彩る『大君の刀』など。

奉賛会だより

◆奉賛会大祭・総会中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症が国内で感染を拡大している状況を受け、本年度予定しておりました「大祭」ならびに「総会」を中止することと致しました。大祭につきましては、会員皆様の家内安全、心身健全、生業繁栄を祈願致しまして、神職のみにて奉仕をさせていただきます。

また総会につきましては、同封の「総会資料」をご覧頂きまして、返信はがきを左記にてご返送下さいますようお願い致します。時節柄、何卒ご理解ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

記

一、返送締切 五月二十五日まで

※同封のはがきにご署名ご捺印のうえ返送下さい。

◆新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。令和元年十二月から二年二月末日までのご入会の方、また会費以外にご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。(敬称略・順不同)

◆新入会員のご紹介

| | |
|--------|-------------------------|
| 岩瀧 美先 | 高取 由季 |
| 小原 順子 | 高取 千恵子 |
| 屋代 彩わ子 | 刈田グリーン株式会社 取締役副社長 刈田 信子 |
| 屋代 征治 | 刈田グリーン株式会社 代表取締役 刈田 忠昭 |
| 田中 欽 | 齊木 律子 |
| 谷越 美鈴穂 | 外山 亜紀子 |
| 矢野 寛 | 渡邊 正徳 |
| 鈴木 美津子 | |

協賛者のご紹介

| | |
|----------------|--------------|
| ◇五万円 | 会長 佐藤 元治 |
| (株)東家寿楽 | |
| 吉田 美智子 | |
| ◇二万円 | 代表取締役 南 太郎 |
| (株)第一滝本館 | |
| 神坂 義明 | |
| 田中 則久 | |
| ヤハラ消防設備(株) | |
| ◇一万円 | |
| (有)津島興業 | 代表取締役 津島 明美 |
| 大乘院薬王寺 | 住職 田中 清元 |
| (株)大栄機工 | |
| (株)高島建築設計 | 高島 潤一 |
| 佐藤 幸枝 | |
| ホクユウテクニカ(株) | 代表取締役 北越 孝 |
| 三王印刷(株) | |
| 長谷機械商事(株) | |
| 出村左官工業(株) | |
| (株)カネイ小川 | |
| 興亜防災設備(株) | |
| 桜井和久 | |
| (株)五勝手屋本舗 | |
| (株)北藤電設工業 | |
| 佐藤 文雄 | |
| 紀野 武夫 | |
| (医)西野おおくほ整形外科 | 大久保隆夫 |
| 三上 直彦 | |
| (株)丸中 中島商店 | |
| (有)北陽写真場 | 代表取締役社長 小田切修 |
| 平山 晃也 | |
| 株式会社 町村農場 | |
| ALSOK北海道株式会社 | |
| 北陽ビルサービス(株) | 代表取締役 其田 雅人 |
| (株)わかさいも本舗 | |
| 六花亭製菓(株) | |
| 横山 末雄 | |
| 山崎 新一 | |
| (有)中村物流代表取締役社長 | 中村 紀行 |

| | |
|-------------------|--------|
| 越前屋 薫 | |
| 宇津野 真理 | |
| (株)裕多加ショッピング | 銘酒の裕多加 |
| 福士 郁弘 | 熊田 裕一 |
| (株)タイコ企画サービス | 本山 公人 |
| ◇五千元 | |
| 鈴木 憲治 | |
| 紫藤 正行 | 澁谷 十九男 |
| 渋谷ネーム工芸 | |
| (有)女子道社 | |
| 庄内 喜久子 | |
| 新潟 正 | |
| 中山ミシン商事株式会社 | 中山 菊雄 |
| 中屋敷左官工業(株) | |
| 長谷川 晋 | |
| 寺沢 一敏 | |
| 中野 美代子 | |
| 大島 恵子 | |
| 小野 善市 | |
| 太田 秀造 | |
| 朝倉 英隆 | |
| 花田 定男 | |
| 青山 晴雄 | |
| 油井 昭造 | |
| 伊勢絵馬 | |
| (株)ケーエフシー・マスマディック | 江口 洸 |
| (有)小泉建業 | |
| 駒野 幸一 | 加藤 俊郎 |
| (株)加藤物産館 | |
| 覚幸 龍一 | |
| 寺島 博美 | |
| 踊翠流刺詩舞総本部 | 菊池 誓子 |
| 河原 清光 | |
| 植木 光敏 | |
| 沖田 善輝 | |
| 村本 和正 | |
| 後藤 淳子 | |
| 松本 武志 | |
| 持田 雅敏 | |
| 森分 一成 | |

医療法人社団 宮の森皮膚科

| | |
|--------------------|-------------|
| 北洋設備(株) | |
| 深尾 喜陸 | |
| 玉置 重俊 | |
| 松野 丈夫 | |
| 米田 光秀 | 中井 昭一 |
| (株)中昭 | |
| 西山 眞吾 | |
| 町田 隆敏 | |
| 山本 晃靖 | 山本 秀樹 |
| 山本内科眼科クリニック | |
| 吉山 八郎 | |
| 市山 義晴 | |
| 藤江 岩勇 | |
| 佐藤 秀樹 | |
| 株式会社シグナル | 代表取締役 赤沼 泰弘 |
| 藤田 勝也 | |
| 藤崎 雅士 | |
| 齋藤 貞夫 | |
| 盛 まなみ | |
| 坂本 和也 | |
| 竹田 博泰 | |
| 丹羽 力 | |
| 渡辺 臣明 | |
| 鳥居 幸子 | |
| 前田 憲太郎 | |
| 中村 美智子 | |
| アミーケ・インターナショナル株式会社 | |
| 札幌ワインマーケット(株) | 伊藤 浩樹 |
| 沼倉 雅治 | 中野 旬太郎 |
| 松村 将之 | |
| 八田 志津江 | |
| 豊田 敏志 | |
| 市橋 武道 | |
| 寺島 典男 | |
| 有限会社 ココウエスト | 代表取締役 大西 仁詩 |
| 大黒 恵美子 | |
| (有)大関調剤 | 代表取締役 大関 博敬 |
| 山崎 勝 | |

◇四千元

(株)君津特殊

| | |
|------------|-------|
| ◇三千元他 | |
| 瀬戸 松一 | |
| 杉山 陽子 | |
| 武田 美奈子 | |
| 塩田 義昭 | |
| 神 忠弘 | |
| 縄 健一 | |
| (株)バンテック | |
| (株)都心ビル | |
| 大島 佳子 | |
| 岩間 邦子 | |
| 大関 雅朗 | |
| 平間 美枝 | |
| 佐々木 都紀子 | |
| 加藤 淳子 | |
| 小野 まき子 | |
| 北海道科学技術研究所 | |
| 阿部電気機工 | 茅根 米久 |
| 佐々木 幸雄 | 阿部 茂樹 |
| 関口 フミ子 | |
| 對馬 眞智子 | |
| 鈴木 良江 | |
| 吉田 晶子 | |
| 鍵水 博樹 | |
| 妻木 悦朗 | |
| 武田 美喜男 | |
| 中西 昭弘 | |
| 菅原 浩一 | |
| 藤井 浩二 | |
| 長尾 恵美子 | |
| 北村 友佳 | |
| 伊藤 啓二 | |
| 高梨削蹄 | 高梨 桂二 |
| 合田 雅行 | |
| 永森 奨樹 | |
| 花本 政則 | |
| 佐藤 久直 | |
| 田中 美知子 | |
| 島田 三男 | |
| 長谷川 博康 | |
| 信本 明子 | |

寺井 伸

| | |
|-----------------------|-------|
| 鶴戸 晏子 | |
| 中島 辰男 | |
| 岡川 一 | |
| 今川 昌樹 | |
| 伊藤 ミノル | |
| 佐々木 真次 | |
| 小笹 國子 | |
| 松田 俊一 | |
| 藤井 一徳 | |
| 澤内 公 | |
| 杉山 二三男 | |
| 中道 和巳 | |
| 佐藤 勇 | |
| 長谷部 克哉 | |
| 宮下 奈巳 | |
| 三浦 和夫 | |
| 宮地 宏 | |
| 松野 敏昌 | |
| (株)まるいち | 齋藤 友子 |
| 真崎 千穂子 | |
| 税理士法人さつぽろ税務会計 | |
| 代表社員 阿部 真澄 | |
| 遠藤 等 | |
| 福田 賢治 | |
| 木村 美智子 | |
| 後藤 彰 | |
| 今野 豊 | |
| 中田 克幸 | |
| 齊藤 寧・久美子 | |
| 三上 政輝 | |
| 情野 隆 | |
| (有)フアインテクノ | 桁 良一 |
| 菅原 政輝 | |
| 能戸 志郎 | |
| 辻 祐二 | |
| 富山 光博 | |
| 中居 毅 | |
| 大谷 国男 | |
| 泉 恵造 | |
| 北村 清松 | |
| (有)アメリカンホームズコンストラクション | |
| 代表取締役 山田 裕一 | |

津川 由美子

| | |
|----------|-------|
| 松浦 壽 | |
| 仁科 啓孝 | |
| 鈴木 伸浩 | |
| 藤本 桂 | |
| 久保田 眞理子 | |
| 内田 昇 | |
| 三浦 清志 | |
| 丸ヨ不動産(株) | |
| 水上 信吉 | 帯向 忠博 |
| 福園 敏行 | |
| 齊藤 京子 | |
| 湊 堅治 | |
| 小山内 清 | |
| 勝浦 栄子 | |
| 南部 士郎 | |
| 南端 恒久 | |
| 牧 康浩 | |
| 白井 秀幸 | |
| 井場 将夫 | |
| 村田 賢 | |
| 井場 一恵 | |
| 菅沼 文昭 | |
| 遠田 深雪 | |
| 栗田 勝 | |
| (株)テンショウ | 太田 修 |
| 坂尻 康平 | |
| 梶田 宏一 | |
| 白澤 一夫 | |
| 宮村 謙一郎 | |
| 熊谷 巨泰 | |
| 武内 秀介 | |
| 中村 理 | |
| 伊藤 裕 | |
| 鎌 信弘 | |
| 前田 生馬 | |
| 齊藤 啓太 | |
| 吉岡 幸治 | |
| 伊藤 勇一 | |
| 齊藤 慎太郎 | |
| 中川設計房 | 中川 義規 |
| 佐藤 睦子 | |
| 吉田 修二 | |